

◆(淵上陽一君) ありがとうございました。

だれもがいつでも安心して受けられる医療体制が維持されることは、県民共通の切実な願いでございますので、困難な状況とは存じますが、引き続き御尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

最後に、介護サービス事業における職員確保の問題について伺いいたします。

昨年3月、NHKで「介護の人材が逃げていく」という特集番組が放送され、大きな反響を呼びました。

当時、これは都会だけで起きている問題だと受けとめましたが、実は今、山鹿市におきましても同じ状況が生まれ、介護サービス事業を運営する上で深刻な問題になりつつあります。その背景として、介護施設職員の労働条件の悪化と給与切り下げの2つの問題が挙げられます。

特別養護老人ホームを例にとりますと、介護保険制度のもと、特養は要介護度4及び5の入所者が大半を占める施設となっているため、その方々の介護に当たる職員の業務内容は厳しさを増す一方であります。

しかし、2度にわたる介護報酬の切り下げによって、事業者は職員に応分の対価を支払えなくなっておりまして。それによって、退職者が相次ぐ一方で、新規求人に対する応募がほとんどないという深刻な状況が起きております。

介護サービス施設は、自宅での介護が困難な方とその御家族にとっての最後のとりでであります。しかし、今御説明したような状況がさらに悪化すれば、介護の質は大幅に低下し、そのしわ寄せが利用者に及ぶことは、当然の成り行きでありましょう。

つきましては、県として、この問題に対してどのような認識を持っておられるか、そして、事態のさらなる悪化を食い止めるために、どのような対策が可能であるかについて、健康福祉部長にお尋ねいたします。

〔健康福祉部長岩下直昭君登壇〕